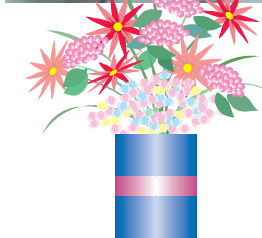




# 花き農業後継者研修の開催

「総合技術普及センター」

## Flower Arrangement



●班に分かれてアレンジメント



総合技術普及センター花き専門科では、担い手としての資質向上を図るとともに交流の場を提供することを目的として、1月26日に20代から30代の花き農業後継者を対象とした研修会を開催しました。

今回は、「花から学ぶカラーコーディネーター」と題し、フラワーコーディネーターの渡辺ひさ子先生を講師に迎え実習を交えての講義を行いました。最初は硬い表情だった後継者のみなさんも、渡辺先生のユニークなお話や、班に分かれての実習で少しずつうとけ、和やかな雰囲気の研修となりました。

一輪の花もよく見ると様々な色から成り立っており、その色同士は必ず調和しています。そのことを頭に入れながら、皆真剣に花弁や葉の表と裏、花くび、蕾などを観察し、色を分類してカードに書き込んでいました。また、研修生それぞれが、自分にどんな色が似合うかを知り、自分に対する発見もあったようです。

今回の研修を通して、今までと違う目で花を観察したり、色の調和を考えて資材を選ぶことなどに活かして欲しいと考えています。

農業技術普及部では平成23年度、花き農業後継者の研修会を5回ほど計画しています。

# 農作物の凍霜害対策について

開花前後や生育間もない新梢・幼果が低温や霜に遭うと、細胞が凍結し凍霜害が発生することがあります。生育が早い品種ほど凍霜害を受ける危険性が高くなります。そのため、次の対策を実施してください。

### 果樹

- 凍霜害が発生しやすい地域のモモやリンゴなどは、摘蕾や摘花の程度を軽くしておき、結実状況を確認してから摘果を行います。作業の遅れによって一時的に強く摘果することにならないよう計画的に作業を進めることも大切です。
- ブドウのホース栽培において「展葉始め」以降に凍霜害が心配される場合は、前日にホースを外して被害の軽減を図ります。
- アウトウの雨よけ施設では、ビニールを広げ、霜が降るのを防ぎます。アウトウは蕾が膨らみ始めた3月下旬から被害を受けることがあるので、早めに準備しましょう。
- 凍霜害が発生した場合は、モモ、スモモ、アウトウ、リンゴなどの受粉が必要な品種では人工受粉を丁寧に行うとともに、被害の少ない下向き花や遅咲きの花にも受粉して結実を確保します。また、凍霜害を受けると生理落果や変形果などの発生も心配されますので、結実状況や果形がわかるようになってから摘果を行います。



### 野菜

- 小型ハウスや一重トンネルの保温効果は、外気温に対して1℃程度しか期待できないので、低温が予想される場合は、さらに保温効果の高い被覆資材（保温マット、シルバーシート、ビニール、ムシロ等）を利用する。
- スイートコーンのトンネル栽培では、軟弱徒長しないようハウス、トンネルの換気を行い、分けつ枝、葉数の確保に努める。
- スイートコーンのトンネル栽培やレタスの被覆栽培では、除去した被覆ビニールやべたがけ資材は片づけないで、いつでも被覆できるようにしておく。
- ナス等の露地野菜については、低温が予想される場合は、定植時期を遅らせる。

凍霜害から農作物を守るためには、正確な情報をつかむことが重要です。今年は3月15日～5月20日を「凍霜害警戒期間」とし、甲府気象台から霜注意報が発表されますので、ラジオやテレビの情報に十分注意して、万全な対策を実施しましょう。



# 山梨県普及センターだより

No.12

平成23年  
3月15日発行

編集／発行●山梨県総合農業技術センター  
住所●甲斐市下今井1100 〒400-0105  
電話●0551-28-2496 Fax.0551-28-4909  
http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/sougonoshi/index.html  
E-mail sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp



## 果樹の省力化技術の普及について

### 「果樹技術普及センター」

果樹栽培者の高齢化や耕作放棄地対策として、管理作業の省力化が求められています。

そのため、果樹技術普及センターでは、ブドウの摘粒作業を省力化する「花穂伸長による摘粒軽減技術」を中心に、短梢剪定、ジベレリン1回処理、新梢管理の省力化のためのフラスター液剤の散布を組み合わせた省力化栽培体系の普及に取り組んでいます。

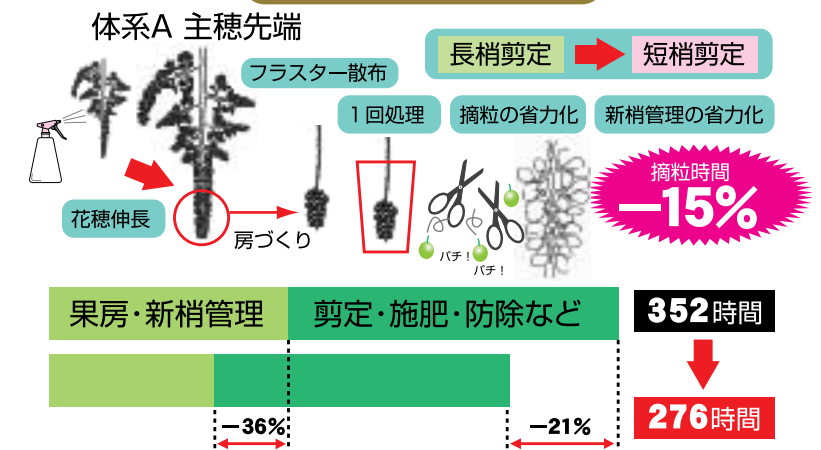
この栽培体系で作業を行うと、労働時間を果房・新梢管理では36%、管理全体では、従来の352時間から276時間と21%削減できます。

本年度は、県内4カ所をモデル産地に設定し、体系的な省力化技術実証ほを活用する中で、検討会等を開催し、栽培者・指導者への技術の理解を図ってきました。今後も、普及センターでは展示ほ等を活用し、ブドウの摘粒軽減技術をはじめとした省力栽培技術を農家の皆さんに取り組んでいただけるよう支援をしていきます。



●現地検討会

### 省力効果の試算



### やまなしの新しい銘柄鶏

## 「甲州からかいどり」



●飼養状況

### 「畜産技術普及センター」

畜産試験場では、ブロイラーよりも美味しく、甲州地どりより安価で購入しやすい新銘柄鶏の開発に取り組んできました。3年間の研究の結果、父親に大型鶏のレッドコーニッシュ、母親に甲州地どりを掛け合わせた本県独自の銘柄鶏「甲州からかいどり」を開発しました。

主な特徴は、飼育期間が84日と甲州地どりより短いこと、より安く提供できること、また肉のうま味を残しつつ適度な脂肪があり、ジューシーな鶏肉であることです。

現在は1農家で生産されていますが、今後、甲州からかいどりの普及拡大に向けて、畜産技術普及センターでは新たな飼養希望者への技術支援を行っていきます。